

平成元年(1989年)	4市が北海道市営競馬組合設立。 金山明彦騎手2000勝達成(8月7日岩見沢競馬場)。
平成2年(1990年)	タカラフジ、ばんえい競馬2頭目の1億円馬となる。 売上金額300億円の大台突破、321億円を記録する。
平成3年(1991年)	船橋競馬場にて、ばんえいアトラクションを開催。
平成4年(1992年)	ヒカルテンリュウ、ばんえい競馬3頭目の1億円馬となる。 久田守騎手が自己の持つ年間155勝(元年)の記録を更新し年間161勝の記録を樹立。 尾ヶ瀬馨騎手が日本プロスポーツ大賞新人賞を受賞。
平成5年(1993年)	ばんえい界初の女性きゅう務員誕生。 ばんえい初の年末年始競馬開催実施。
平成6年(1994年)	帯広競馬場走路ヒーティング施行。 アサギリ、ばんえい競馬4頭目の1億円馬となる。 ばんえい競馬マスコットキャラクター「リッキー」制作。
平成8年(1996年)	久田守選手2000勝達成(1月15日帯広競馬場)。 マルゼンバージ、ばんえい競馬5頭目の1億円馬となる。 金山明彦騎手が久田騎手の持つ年間161勝の記録を更新し年間163勝の記録を樹立。 とんねるず北見競馬場来場。(7月3日・11月20日帯広競馬場) ばん馬と象の対決。(9月8日帯広競馬場)
平成9年(1997年)	ばんえい界初の女性騎手誕生。(辻本由美騎手1月11日帯広競馬場デビュー) 金山明彦騎手3000勝達成。
平成10年(1998年)	サカノタイソン、19連勝達成。 フクイチ、ばんえい競馬6頭目の1億円馬となる。
平成13年(2001年)	フランスで行われた世界ペルシュロン大会に招かれ、模擬レース実施。
平成14年(2002年)	ハロンズ苫小牧オープン。 坂本東一騎手・藤本匠騎手2000勝達成。 高橋洋典騎手日本プロスポーツ大賞新人賞受賞。 佐藤希世子騎手NARグランプリ優秀女性騎手賞を受賞。
平成15年(2003年)	Aiba小樽・滝川で場外発売開始。 大井競馬場ふるさとコーナーで場外発売開始。 岩本利春騎手2000勝達成。
平成16年(2004年)	ハロンズ名寄オープン。 Aiba中標津・留萌・札幌駅前でも場外発売開始。 北海道の馬文化として北海道遺産に選定される。
平成17年(2005年)	スーパーベガサス、「ばんえい記念」史上初の3連覇。 西弘美騎手2000勝達成。 Aiba千歳・函館港町でも場外発売開始。 映画『雪に願うこと』東京国際映画祭でグランプリを含む4冠に輝く。

ばんえい年表

ばんえい競馬70年の歩み

昭和21年(1946年)	地方競馬施行規則第9条により、地方競馬に初めて「ばんえい競走」が加えられる。
昭和22年(1947年)	北海道馬匹組合連合会の主催で、旭川・岩見沢で各2日間ばんえい競走が開催される。
昭和23年(1948年)	競馬法改正により、国営競馬と地方競馬は都道府県の指定市町村の主催となる。
昭和24年(1949年)	旭川・帯広にて道主催の「ばんえい競馬」を各2日間開催。
昭和28年(1953年)	旭川、帯広、北見、岩見沢で市営競馬発足。 平地 帯広2回9日 旭川、北見、岩見沢各1回13日 計5回22日 ばんえい 帯広、岩見沢各2回8日 旭川、北見各1回5日 計6回13日
昭和38年(1963年)	旭川競馬場のばんえい走路をU字から直線コースに改善。 旭川で対面着順写真(スリットスキャン)判定採用。 帯広・北見・岩見沢の競馬場で採用されたのは昭和44年だった。
昭和39年(1964年)	馬の体型による格付区分を体重制に改正。
昭和40年(1965年)	岩見沢競馬場移転。
昭和41年(1966年)	道営ばんえい競馬を中止し、全面的に市営主催となる。
昭和43年(1968年)	帯広・北見・岩見沢のばんえい走路をU字から直線コースに変更。
昭和46年(1971年)	鉄製そり、鉄製引木、グラスファイバー製かじ棒の採用。 スターティングゲート設置。
昭和48年(1973年)	東京大井競馬場にて、ばんえいアトラクションを開催。 馬の格付区分を取得賞金制に改正。 帯広の馬券売上高上昇率188.5%(全国伸び率第一位)。 4市合計でばんえい有史以来の記録を達成。
昭和49年(1974年)	北見競馬場移転新築落成。 帯広競馬場スタンド新築落成。 馬場状況の判定に赤外線水分計を使用し含水度による表示を実施。
昭和50年(1975年)	旭川競馬場移転新築落成。
昭和51年(1976年)	鉄そり、重量物の改良型採用。
昭和53年(1978年)	出走馬年齢を10歳以下に制限。 宇都宮競馬場で、ばんえいアトラクションを開催。
昭和58年(1983年)	水沢競馬場にて、ばんえいアトラクションを開催。
昭和59年(1984年)	4市競馬場で相互場外発売開始、並びに中央競馬釧路サービスセンターでの場外発売実施。
昭和61年(1986年)	キンタロー、ばんえい史上初の賞金取得額1億円を達成(8月24日岩見沢競馬場)。

平成25年(2013年) 帯広競馬場ほか場外発売所4カ所で中央競馬勝馬投票券の発売開始。深川場外発売所開設。帯広市ばんえい競馬運営ビジョンの一部見直しを実施。帯広市単独開催7年目で初の黒字。大河原和雄騎手日本プロスポーツ大賞功労賞を受賞。映画『銀の匙』の撮影に協力。

平成26年(2014年) 大河原和雄騎手3000勝達成。勝馬投票券の払い戻し率を改定。総合案内所リニューアル、ばんえいギャラリー新設。コトブキライアン、ばんえい競馬史上最高齢(14歳5カ月)での勝利記録達成(9月21日)。CSスカパー「地方競馬ナイン」開始。ばんえい競馬もライブ放映に。

平成27年(2015年) 競馬業務委託先として(株)ティワイネット、北海道有線放送(株)と契約締結。新投票方法(拡大馬番号2連勝複式・枠番号2連勝複式)の導入。名寄・深川場外発売所で中央競馬勝馬投票券の発売開始。ふれあい動物園、コース脇イルミネーションをリニューアル。キング、3頭目のPRばん馬として帯広市特別嘱託職員に就任。ばんえい十勝フリーマガジン「Pommele(ポムレ)」創刊。服部義幸調教師2000勝達成。尾ヶ瀬馨騎手2000勝達成。

平成28年(2016年) 鈴木恵介騎手2000勝達成。三連勝単式にて、ばんえい史上最高配当2,550,690円の記録更新(4月23日)。西謙一騎手、ばんえい史上最短のデビューから9年目で1000勝達成(10月30日)。セレクト7重勝単勝式にて、ばんえい史上最高配当15,883,590円を記録(12月24日)。

平成29年(2017年) 1日の発売が215,890,300円となり、帯広市単独開催後最高発売額を記録(1月2日)。松田道明騎手2000勝達成。ばんえい十勝公式ホームページリニューアル。

平成18年(2006年) ばんえい界初の女性調教師誕生(谷あゆみ調教師)。Aiba江別で場外発売開始。大河原和雄騎手2000勝達成。スーパーベガス、「ばんえい記念」4連覇・史上7頭目の1億円馬となる。旭川市、北見市、岩見沢市がばんえい撤退を表明。

平成19年(2007年) ばんえい競馬帯広市による単独開催へ。オッズパーク・ばんえい・マネジメント(株)設立、開催業務の一部を運営。4月27～30日、新生ばんえい「ばんえい十勝」オープニングイベント開催。リッキー、PRばん馬として帯広市特別嘱託職員に就任し、特別住民登録する。公募により新ファンファーレ決定。西弘美・謙一、現役親子騎手誕生。スタンドフェンスエキサイトゾーンの拡張。ふれあい動物園(ミニ動物園)開設。初のナイター開催を実施(6月16日)、イルミネーション点灯。「とかちばん馬まつり」開催。以後、毎年恒例イベントに。坂本東一騎手日本プロスポーツ大賞功労賞を受賞。西謙一騎手NARグランプリ優秀新人騎手賞を受賞。

平成20年(2008年) ミルキー、PRばん馬として帯広市特別嘱託職員に就任。帯広競馬場の馬券発売窓口の自動発売機導入。トモエパワー、ばんえい記念3連覇達成。

平成21年(2009年) 旭川北彩都場外発売所開設、北見場外発売所移転開設。発走時刻を1時間遅らせる「薄暮レース」開催(5月9日より)。5重勝式馬券のインターネット発売開始。長澤幸太騎手日本プロスポーツ大賞新人賞を受賞。

平成22年(2010年) 帯広競馬場敷地内に観光交流拠点施設「とかちむら」オープン。網走場外発売所開設。JRAジョッキーDAYに武豊騎手が初来場。藤本匠騎手日本プロスポーツ大賞功労賞を受賞。朝調教ツアーをスタート(12月26日)。

平成23年(2011年) オッズパーク・ばんえい・マネジメント(株)より、ばんえいオペレーションズ(株)に変更。3連勝賭式勝馬投票券の導入、併せて枠番号2連勝複式の廃止。帯広市ばんえい競馬運営ビジョンの策定。島津新騎手日本プロスポーツ大賞新人賞を受賞。鈴木恵介騎手ばんえい競馬年間最多勝記録246勝を達成。

平成24年(2012年) NHK北海道発スペシャルドラマ『大地のファンファーレ』制作・放送される(2月17・24日)。競馬事務委託先として株式会社コンピューター・ビジネスと契約締結。琴似駅前場外発売所開設。藤本匠騎手ばんえい競馬歴代通算最多勝(騎手)となる3300勝を達成。7重勝式馬券のインターネット発売開始。カネサブラック、ばんえい競馬史上最高の通算重賞勝利数21勝を達成。